

今までを振り返ってみて

橋 祐貴

今回の特集のテーマは「あの時君は若かった」です。兵庫のメンバーの中では若手の私も頸損歴は今年で14年。まだ若いつもりですが、ボランティアの学生との年齢がだんだん離れてきていて「自分も年をとったな…」と感じます。また今までを振り返ってみて「あの時にこうしていたらよかったな」と思うことも多々あります。

私が受傷したのは高校3年だった2004年10月、自転車事故でC1・C2を損傷しました。受傷部位が受傷部位だけに数カ月間は意識がまだらでした。受傷前の記憶も飛んでいたため、何が起きたのか理解できずにいました。当初は気管切開と胃瘻をしていましたが、当時の私にそのようなものの知識など無く余計に混乱しました。入院期間も1年半と長く、そのあいだに高校を卒業しました。入院期間の最後に県リハに半年ほど入院しましたが、整形の病棟でなかったこともあり、他の頸損の方とほとんど関わることなく退院しました。

在宅生活に戻った当初は起立性低血圧が酷く、ベッドから車いすへの移乗に30分近くかかっていましたが、徐々に身体が慣れてきました。このころは体重も40キロほどしかなく、季節の変わり目になるとよく体調を崩していました。普段の外出も週2回の通院リハビリくらいで、出かけた後は疲れ果てていました。



今よりも痩せていたころ（当時25歳）

2007年に通信制の放送大学に入学。同じ頃に三戸呂会長も在学していると聞きましたが、自分から声をかけることはできませんでした。周りに同世代がほとんどいなく、最初の頃はあまりやる気はありませんでした。どうしても一度はセンター

試験を受験したいと思い、2009年に大学入試センター試験を代筆試験で受験。結果は惨敗でしたが気持ちが吹っ切れて、以降はきちんと授業をとり、2013年に卒業しました。その後自宅で職業訓練をeラーニングで受講しましたが、いまだ就労には至っていません。

受傷から10年経った頃、「このままの生活ではまずい」と感じるようになり、ようやく頸損連に入会しました。同世代のメンバーが積極的に活動し、地域で自立生活を送っている姿に刺激を受けました。他のメンバーが電動車いすで自由に動いているのが羨ましく、昨年末にようやく自分の電動車いすを手に入れました。まだまだ操作に慣れていなくて危なっかしい運転ですが、自分で動くことができるのはやはり気持ちいいです。今までよりもっと世界が広がるのではないかと思います。



電動車いすで外出

今まで尿路結石以外で特に大きな病気もなく過ごしてきましたが、昨年足の甲を骨折しました。頸損者は骨粗しょう症になりやすいとは聞いていましたが、まさかこんなに早く骨が弱くなるとは思っていませんでした。またここ数年で体重がみるみる増加していて、ついに60キロを超えてしまいました。これからは今まで以上に健康管理に気をつけたいといけないなと感じています。

受傷から今まで順調に事が進んだわけではありませんが、何とか過ごすことができました。ただ、一人暮らしや就労等、実現できていない目標はまだあります。これらの目標をすぐに達成するのは難しいかもしれませんが、少しずつ実現していけたらいいなと思います。